

猪苗代町歴史探訪ガイド

国立磐梯青少年交流の家

猪苗代歴史探訪ウォークラリーをする前に「保科正之公」について知っておきましょう！！

猪苗代町の歴史でよく出てくる「保科正之」で誰？

江戸時代の大名で、慶長16年生まれ、寛文12年没。(1611～1672)
会津松平家初代藩主。3代将軍徳川家光の異母弟（お母さんが違う弟）であり、信州高遠の城主の養子となる。その後、最上、山形、続いて会津の城主となった。
家光没後、正之は幼将軍家綱を補佐、文治主義（武力を用いないで、教化または法によって世を治めること）を徹底させた。若松滞在は生涯3度であったが腹心の（深く信頼している）家老らが統治にあたり、特に家訓十五ヶ条で子孫に徳川家への絶対忠誠、法への絶対服従を示した。没後は猪苗代の土津神社に祀られた。

五輪塔（町指定重要文化財）...CP1
猪苗代城の最後の城主 猪苗代盛胤の遺徳をし
のび、百目木村の白井平右衛門が中心になって、
地方の人々に呼びかけて1658年（明暦4年）
に建立したもので、高さは3mある。他の5基は
家族のものといわれている

土田堰...CP2
土田堰は長瀬川（酸川の合流地点よりやや北側
の辺り）から引水され、磐梯山東麓から土津神社
の境内前を通り、大谷川下流にそそぐまでの約17
kmの堰で、磐梯山の南麓・猪苗代湖北西部一帯を
灌漑している。土田堰によって開墾された村は
土田新田村と呼ばれた。

亀ヶ城公園（町埋蔵文化財）...CP4
若松城が「鶴ヶ城」というのに対し、猪苗代城
は別名「亀ヶ城」と呼ばれている。1212年（建
暦2年：鎌倉時代の初期）に、猪苗代経連によっ
て築城され、日本の築城としては早期に属する平
山城である。
1590年（天文18年）蒲生氏郷の入部以来、
城代（城主のかわりに城を守る者）が置かれ、若

松の支城となり会津東部の守りとして重要な役割
を果たした。
戊辰戦争（1968年）のとき、新政府軍の攻
撃を防ぐことは不可能と判断し城を焼きはらって
若松に退却した。その後は、荒れほうだいたった
が、1905年（明治38年）から町内の有志に
よって桜・松などが植えられるようになり、町民
の憩いの場として解放された。1958年（昭和
33年）、町の都市計画によって公園になり、19
69年（昭和44年）亀ヶ城公園となった。

西円寺...CP6
浄土真宗本願寺派。山号樹林山
寺宝としては野口英世が1915年（大正4年）
翁島に帰ってきたときに書いた直筆の書「脱塵
（世間のわずらわしさからのがれること。俗塵か
ら脱すること。）」「濟生（生命を救うこと）」の2幅
がある。
また、境内には1889年（明治22年）建立
の「磐梯山破裂罹災死亡者之墓」がある。その他
に戊辰戦争（1868年）で戦死した西軍の
「中島与一郎の墓」を東軍の「勝軍山戦死者の墓」
（29名合葬）がある。

裏面へ

磐崎神社...CP8

会津高田町の伊須美神社、会津若松市の蚕養国神社とともに会津地方を代表する式内社として有名である。

猪苗代城の歴代領主の保護を受け、とりわけ江戸時代の会津松平藩初代藩主 保科正之公は、社殿の造営、社領の寄進など貢献した。保科正之公が奉られている「土津神社」は磐崎神社の末社となる。現在、境内には天然記念物の「大鹿桜」があるが、これは村上天皇の勅使が奉獻したものとされている。またこの桜は、福島県の「緑の文化財第1号」に指定されている。また、「大鹿桜」以外にも、天然記念物に指定されている大きな杉の木がある

田中正玄の墓...CP9

正玄は15歳のとき、信州高遠で保科正之につき、最上、会津へともに移った。会津では家老として仕え、その有能ぶりは、当時の幕府の大老土井利勝に「天下に3人の家老がいる。備州の成瀬隼人、紀州の安藤帯刀、そして肥後の守(保科正之)の田中正玄がそうである」と言わせたほどである。

1613年(慶長18年)生まれ、1672年(寛文12年)没。

キリタン殉教の地 ...CP10

会津地方にキリタンが伝来したのは、1590年(天正18年)、蒲生氏郷が会津藩主になってからである。氏郷時代の猪苗代では、猪苗代城代の岡越後が熱心な布教活動とキリスト教を保護をしたため、磐崎神社に残る記録に「各社寺の神官や僧侶は生活にも困り、社寺はおとろえ荒れはてた。」とあるほど、キリスト教が普及した。

その後、1623年(元和9年)、家光が將軍になると、キリタン禁絶政策が強化され、会津もキリタン信者の追放と投獄(牢屋に入れること)

が行われた。

ここは、岡越後の妻子の墓とも伝えられており、また処刑された信徒の「耳」を葬った「耳塚」とも言われている。

土津神社・保科正之の墓

(国指定文化財・町指定文化財)...CP11・12

会津藩祖「保科正之公」を祀った神社である。「土津」の名前の由来は、土(つち、はに)は宇宙の構成要素、万物の「始め」と「終わり」をあらわしており、「宇宙の万物(土)を窮められた会津藩主(津)である」という意味をもつ。

正之の遺言により、神道形式で遺体をこの地に葬った。社殿は、1673年(延宝元年)に完成し、御神体を正殿に安鎮し、磐崎神社の末社とした。

戊辰戦争(1868年)のときに当時の建物は戦火で焼け落ちたが、古来の正式に則った神殿造で、「日光東照宮」と比較されるほどの絢爛豪華な建物だったという。現在の神殿は、1880年(明治13年)に再建されたものである。

ここでは保科正之公が祀られている「神道形式の墓」を見ることができる。墓を構成する1つの建造物「土津神社霊神之碑」は、墓碑としては日本最大のものである。「碑」とは、墓の主の業績を書いたものであり、現在の履歴書みたいなものである。

土津神社の本殿の階段をしばらく上がったところに、「保科正之公墳墓」がある。正之は重臣ともに見祢山へ登り、磐崎神社へ参拝した。その時に猪苗代湖が一望できるこの地を気に入り、自らの墓所と定めたという。

参考文献

「会津大辞典」「猪苗代町史 歴史編」
「猪苗代町の文化財」